

視点 論点

News, Trend Analysis and Opinion

ーンは枚挙にいとまがない。

テレビ観戦の際、表彰式でメダリストに渡された色鮮やかな花に気付かれた方も多いだろう。「ビクトリーブーケ」と呼ばれる花で、東日本大震災の被災地で栽培された花（福島県産のトルコギキョウとナルコラン、宮城県産のヒマワリ、岩手県産のリンドウ、そして東京都産のハラン）が使われており、それに大会マスコットのミライトワのぬいぐるみ（メダルの色に合わせて色分けされている）が取り付けられている。単に見た目が美しいだけでなく、東京オリンピックが掲げていた「復興五輪」というコンセプトを体現したアイテムの一つなのだ。ブーケの大きさに合わせた小ぶりのヒマワリの栽培方法を研究するなど、被災地の花卉農家の方の努力の結晶である。

残念ながら、「復興五輪」というコンセプトは、コロナ禍の混乱や開会式に関するゴタゴタの影響で、あまり目立たなくなってしまった。世界各地から来日する観客に被災地の復興を見てもらうことはできず、一部会場を除き国内の観客についても無観客とな

東

京オリンピックでは、全世界から集まったトップアスリートによる熱戦が繰り広げられた。コロナ禍で厳しい制約がある中、懸命に競技を行った選手の皆さまに敬意を表したい。日本人選手も多くのメダルを獲得するなど目覚ましい活躍を見せ、長引く新型コロナウイルスで沈んでいた日本に笑顔をもたらしてくれた。スケートボードでの日本人最年少金メダル、ソフトボールの13年越しの金メダル、お家芸柔道での快進撃など、印象に残るシ

る異例なオリンピックとなってしまった。感染拡大のタイミングでの開催に関して、感染対策や国民への説明が不十分だとの指摘も少なくない。

そのような中、被災地各地から集まったきれいな花が、世界に向けてメッセージを届けてくれたことは一筋の光であった。数少ない復興五輪のシンボルだったといえる。筆者も国の委員としてこの10年ほど被災地（宮城県、岩手県、福島県）の農業、花卉産業の復興を微力ながらも支援してきたので、このような晴れ舞台で被災地の農産物を見ることができてうれしく思う。

当初の想定と異なり、開催国として復興五輪を十分にアピールすることはできなかったが、幸いなことに海外

からの参加者が復興に関する話題を世界に発信してくれた。福島県でも試合の行われたソフトボールでは、アメリカ代表のエリクセン監督やオーストラリア代表のハーロウ監督が「福島県産の桃がとておいしかった」とコメントし、さらにエリクセン監督は「われわれは福島の人たちと共にある」というエールを送ってくれた。また、それを受けて野球日本代表の稲葉監督も福島県産の桃を絶賛している。

オリンピックの公式の場で被災地の農業の復興をアピールする機会が減ってしまった中、影響力の大きい方々が被災地の農産物に言及してくれたのは本当にありがたく、生産者からは感謝の声が多く上がっていると聞く。また、岩手県八幡平市のウェブ

サイトによると、同市で直前合宿を行ったルワンダ共和国の選手団が、開会式で岩手県産のリンドウを掲げてくれたそうだ。これらのコメントや取り組みに対して、世界各地で報道され、SNS（会員制交流サイト）でも情報が拡散しているという。

これから開幕するパラリンピックのピクトリーブーケには、福島県産のトルコギキョウ、宮城県産のバラ、岩手県産のリンドウ、東京都産のハランが使用予定とのことだ。パラリンピアン

農産物が示した『復興五輪』の姿



三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター
エキスパート

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。18年7月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。18年6月から農林漁業成長産業化支援機構社外取締役。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構代表取締役専務）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信社編集委員）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センター エクスパート）が交代で執筆します。

INFORMATION



「『終活』に参入する企業・自治体の最前線」

終活読本ソナエ編集長 赤堀 正卓氏

講師略歴 1968年生まれ、静岡県出身。法政大社会学部卒。91年産経新聞社入社。編集局社会部で宗教、司法、東京都庁、厚労省などを担当。2010年、編集局副編集長。13年に社内ベンチャーで「終活読本ソナエ」を創刊し、編集長に就任。16年より終活事業担当部長を兼務。

■石見政経懇話会 第271回定例会

日時 8月10日（火）正午～午後2時

会場 浜田ニューキャッスルホテル（浜田市殿町）

■石西政経懇話会 第232回定例会

日時 8月11日（水）正午～午後2時

会場 ホテルサンパレス益田（益田市高津町）

【会員制】入会などの問い合わせは山陰中央新報政経懇話会事務局（☎0852・32・3477）、またはHPをご覧ください。